

フィルム製造での異常検出をリアル化し設備調整を早期化

お客様工場では真空の炉内で製造するフィルムの異常をオペレータが目視で監視し異常を分類することにより設備の運転調整を行っていました。しかし、異常の多さから、設備調整が遅れ、生産効率が低下していました。

お客様のプロフィール

会社名
繊維化学製造工場様

従業員数
約300人

業種
軟包装品製造

所在地
全国に数工場

繊維化学

工場

導入前の課題

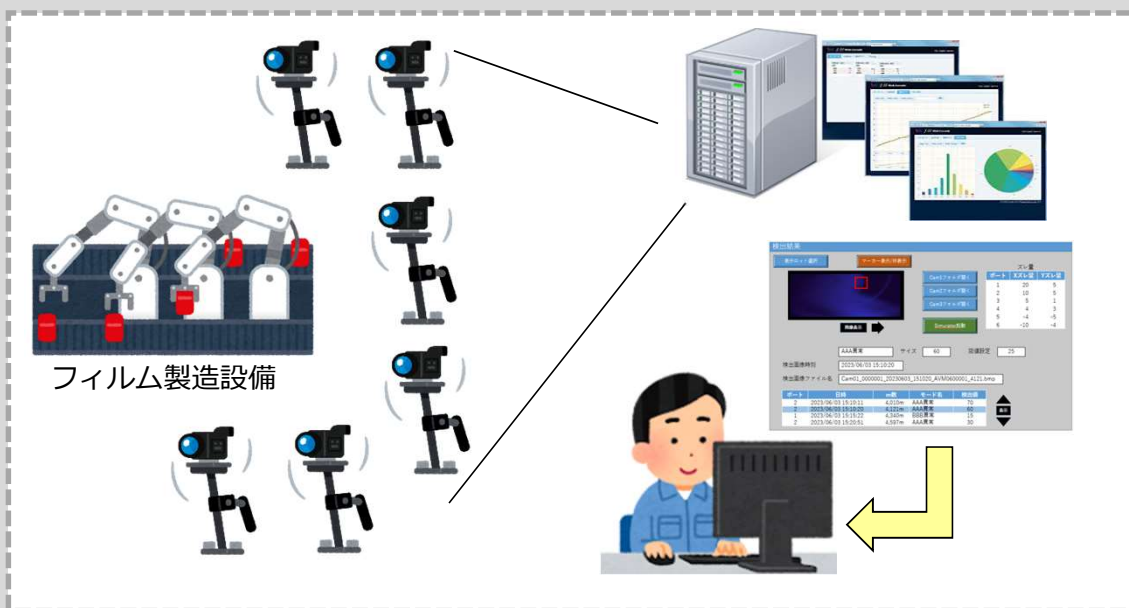
- 目視で監視する範囲が広い
- 異常の種類が多く、覚えられない
- 異常の種類を分類するパターンも多い

選んだ理由

- 複数台のカメラによる広範囲の視野確保
- 多くの異常の種類を登録できるソフト
- 自動で不良をパターンに分類しデータも保存

導入の効果

- 異常を漏らさず全てを監視できた
- あらゆる異常からの早期設備調整の実現
- 検査の強化による品質の確保



手動で行っていた異常の分類を画像処理ソフトで自動分類、設備調整を早期化

■ポイント

- 多数の監視個所を複数のカメラで網羅
- 専用の画像処理ソフトによる異常の監視と分類
- 異常検知をリアルタイムに通知

■導入費用・納期

- 装置本体製作費 約3,000万円 ※光学機器含む
- 工期：約6カ月